

1月7日「学校に対話を！修復的対話体験会」

オンライン参加者質問へのお返事

質問1) 公立の小学校・中学校でスクールソーシャルワーカー(SSW)をしています。修復的対話を学校の文化として定着させていく取り組みの中で様々な困難があったかと思えます。SSWが学校において『修復的対話』が必要だと考えた際に、どう戦略的に学校文化への介入を試みたのか？その手段や工夫、当時の想いについて伺いたいです。

【ニーナさんからのお返事】

1) 私が初めて修復的対話サークル／プラクティスに出会ったとき、(民主的)価値観の基本的な基礎と、修復的対話サークルRCがどのような分野、例えば法律学、犯罪学、教育学、社会学、文化人類学、心理学などの上に成り立っているかを知り、これらの分野すべてで共通していると感じられてとても力強く思いました。帰属感や方向感を与えてくれたと思っています。

自分自身でトレーニングを行った後、ミーティングの場で同僚と新しい知識を共有し、全員が基本的な知識を身につけられるようにしました。同僚と理解を深めるには時間がかかりますが、小さな積み重ねが大切だと思います。

その後、新しい学校を始めるにあたり、有名なトレーナーを雇い、全教師、そして後には全アシスタントを対象にしたワークショップを行いました。それ以降は、先生をペアやグループに分けてトレーニングに参加させたり、プロフェッショナル・ディベロップメントの時間に先生全員と生徒メディアエーターやピアメディアエーターと一緒にトレーニングを行ったりするようになりました。

【ジムさんからのお返事】

1) 私は、管理者や補助職員を含む学校全体の職員に対して、修復的正義の実践理念、理論、実践とその成果についての基本的な紹介をすることが重要だと考えています。その最初のグループから、実践とアプローチについてさらに「深く掘り下げた」トレーニングを受ける者を自ら選ぶパイオニアとなります。この人たちは、話し合いや模範を示

して、好奇心旺盛な人たち（アーリーアダプター）を熱狂させ、今度は慎重な人たち（レイトアダプター）に影響を与える、あなたの支持者となります。

どのグループにも、西洋社会では6%程度、日本ではどうかわかりませんが、拒絶する人たちがいます。

《役に立つかもしれないこと》

- ・学校でのアプローチをサポートする権威ある人
- ・修復的正義の価値の共有を学校に導入することは、4歳以上の子どもから用いることができる簡単で有用な方法です。
- ・スタッフが経験や知識を共有するための定期的なサポートサークル
- ・全スタッフと子どもたちのための定期的なサークル
- ・経験豊富なトレーナーが、罰則的から修復的に移行することを紹介してサポートすること
- ・言葉を少しずつ変えていくこと
- ・様々なアプローチ：対話、クラスでの話し合い、第三者による修復的対話、サークル（傾聴、癒し、問題解決、修復的など）、文書ワークなど

目標は、すべての相互作用を修復的正義アプローチとして扱うことです。スタッフにとって共通の心配事は時間です。しかし、紛争に懲罰的に対処するために費やされる時間は全体的に減少します。スタッフが何も考えずに使い始めると、やがて自然に復的正義アプローチが身につきます。

質問2) 大変、興味深いお話をありがとうございました。例えば、スクールカウンセラーの立場から、日本の小学校で修復的対話を取り入れようとする場合、月に1回～2回の勤務と大変少ない時間で、他の個別対応もしなければならない現状があります。そのような現状で、修復的対話を取り入れようとするのは、とても難しいように感じるのですが、何か、アドバイスがありましたら、ご教示頂けると幸いです。

【ニーナさんからのお返事】

2) 学校や職場などで、あらゆるやり取りで、修復的対話が使えると思います。あなたの修復的な考え方は、アクティブリスニングや非暴力コミュニケーションのような、あなたが扱うすべての人や状況に対応するためのツールを提供することになります。

また、修復的対話はそれほど長い時間である必要はなく、10分、15分、20分でよいということを心に留めておいてください。私は、短いセッションでも、長い間隔でも、非常に価値があると思っています。修復的対話サークル RC の考え方を身につけるには時間がかかるので「ゆっくり」でも心配はありません。参加者に考える時間を与えることができます。

また何か質問があれば、喜んでお答えします。

【ジムさんからのお返事】

2) 修復的対話は、わずか5分ほどで終了します。目標は、生徒が自分の行動を処理し、あらゆるレベルで文脈化することである。必ずしも自分の考えを言葉にする必要はありません。すぐに効果が出る子もいれば、その場から立ち去って考え込む子もいます。

また、文章による練習をさせることもできます。

a) 危害が加えられたときに、修復的な問いに答えてみよう(考えてみよう)-何が起こったのか？あなたは何を考えていましたか？誰がどのような影響を受けたか？次回はどのように違うことができますか？被害を修復し、関係を再構築するために何が必要ですか？

b) 傾聴が止まったらあなたの立場を理解してもらうために、答えてみよう(考えてみよう)相手に、何を聴いてもらう必要がありますか？相手があなたのニーズを満たすために、あなたは何をする必要がありますか？

c) 経験した傷や害 harm を詳述した "治療的な"手紙'therapeutic' letter を書かせる。

これらの手紙は、相手と共有する必要はありませんが、必要であれば、生徒とより深く話し合うために使用することができます。

ご参考になれば幸いです。

対面参加者からの質問：まだお尋ねしていなかった質問

1) 日本では、まだ RJ という言葉に馴染みのない人が大半で、日本の文化や学校の制度、仕組みの中でどのように実践していけばいいのか？といった疑問があります。学校での実践は、まず誰が率先して行うのか？ノルウェーでは、社会教育の先生が中心になっているようだったが、先生なのか、ソーシャルワーカーなのか。

【Jim】

紛争解決、平和維持、調停、関係構築、いじめ防止アプローチなど、人々が理解できる言葉を使い、それらを使うときは、「修復的」という言葉も入れてください。

問題を解決した後、「あれは修復的アプローチだった」と言えばいいのです。

修復的という言葉は、これらの実践に関連付けられ、常態化するようになります。

この取り組みは、上級職員がサポートする必要があります、最も熱意のある人（支持者：チャンピオン）が使用し、推進することが許され、奨励されるべきです。学校によっては、教員やガイダンス・カウンセラー、ソーシャル・ワーカーに影響されることもあるでしょう。他の人が使っていて、それが成功するのを見れば、職員は自分も使い始めるだろう。

【Nina】

Nina: 学校でこれらの考えを紹介するのは誰であってもかまいません。RJ/RP に関心を持った人が、自分の学校に導入すればいいと思います。それは「トップダウンでもボトムアップでも」構いません。私の学校では、私の同僚である Safe Learning の教師が、学校でトレーニングを行いました。学校は、RJ/RP に関する考え方や哲学を基本的に紹介し、その後、スタッフのグループに一定の間隔で、それを活気づけてスキルを向上させる責任を持たせることをお勧めします。

2) ステレオタイプな関係を醸成することなく、子どもたちと実践するために留意すべき点はあるか。

【Jim】

4歳以上の子どもには、価値のテーマを導入することができます。

1. その週またはその月の価値を1つ選びます。例例：親切、分かち合い、友情など
2. 子供がその価値を例として示したら、「かおるは、グループから外された人を自分と遊ばせたとき、『思いやり』の価値を示した」と書かれた『価値チェック』を渡す。(人、価値、行動を特定する)
3. 子どもはその小切手を学校や教室にある特別な箱に投函します。
4. その週の最終日に小切手1枚か2枚をランダムに選び、名前が選ばれた子どもには小さな賞品が与えられ、クラスや学校でお祝いをします。

年長の子どもたちは、その週または月の価値観のテーマに関連した物語を書くことができます。例えば、「理解する」という価値を誰かに見せられたり、見せられたりしたときの話でもよい。

<構成>

1. 出来事
2. その行動の影響（自分、相手、他者）
3. 解決した後、自分はどう感じたか、相手はどう感じたと思うか
4. なぜ、そのことが自分や他の人にとって重要だったのか。

一般的なサークルタイムやテーマ別の話し合い

【Nina】

教師と生徒の間にパワーインバランスがあることを念頭に置かなければなりません。教師は、教師と生徒の関係に責任があります。子どもたちの声に耳を傾けることで、教師は子どもたちを尊重し、その言葉を大切にすることができます。どんな教師も「自分が教えていることを手本にしなければならない、そうでなければ、他のことを教えていることになる」のです。

- 3) 学校には、生徒だけでなく、保護者や知的・精神・発達障害のある人など、さまざまな人が集まってくると思います。そのすべてに同じように対応することができるのでしょうか？

【Jim】

学習や精神的、発達的なニーズを持つ子どもや大人に対して、よりのを絞ったアプローチが必要であることは間違いありません。どのようなアプローチも、文脈に沿ったものであるべきです。

【Nina】

はい、絶対にそうです。誰もがRJ/RPの方法を学び、採用し、行動することができます。それは、「心にあるもの」「共感」「人間的・民主的価値観」にとっても関係していると思います。

- 4) コロナの震災の環境では、人間関係の構築、維持、修復のための活動が限られていました。そのためにどのような努力をしましたか？

【Jim】

避難している間、子どもや大人がどれだけ大変だったかを話す場を設けることが大切です。これはサークルを使って行うことができ、あまり話したがらない人たちにも、自分の感情や経験は自分だけではないことを分かってもらうことができます。ロックダウンの後、14歳から16歳の男の子が最も辛い経験をし、より破壊的な行動をすることがわかりました。

【Nina】

パンデミックによる困難や不安、緊張をみんなで話し合うことは、RJ/RPの大切な要素です。感情に対処することは、重要な要素です。感情を認識し、大切にし、困難な感情に対処する方法を共有し、互いに慰め合う。

5) つながり、尊敬、相互理解を維持するために、あなたが好きな言葉は何ですか？

【Jim】

私の場合は、「Anam Cara」というアイルランド語で、魂のつながりを意味する言葉です。

【Nina】

「ウブントゥ」-ウブントゥとは、古代アフリカの言葉で、「他者への人間性」を意味します。私たちが皆そうであるからこそ、私は私である」ということを思い出させてくれると、よく表現されます。